

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 99 回

『新5000円札の「津田梅子」 ～ 大切と思ったことを、次の世代に伝える ～』

筆者は、2022 年 3 月 5 日スペシャルドラマ「津田梅子 ～ お札になった留学生 ～」(テレビ朝日；9:00～11:05pm)を観た。2024 年からの新 5000 円札の「顔」になるとのことである。聖徳太子(574-622)→新渡戸稲造(1862-1933)→樋口一葉(1872-1896)→津田梅子(1864-1929)」である。2012 年 新渡戸稲造生誕 150 年記念で、出版された大津光男 先生の『稲造精神とララ物質』(新渡戸基金発行)が送られてきた(画像)。その中に『新渡戸稲造と津田梅子を結ぶ縁』で下記の文章が記述されている。

『1871年は、盛岡の新渡戸稲之助少年は、芝区明舟町(現在の港区虎ノ門二丁目付近)の叔父太田時敏の養子となるべく、3歳上の次兄道郎(1859～1884)と共に駕籠で上京。11日間の旅程は、稲之助の満九歳の誕生日直前のことで、ほどなく彼は、太田稲造と名を改め、築地の外人英語学校に入学した。同年11月12日、特命全権大使岩倉具視(1825～1883)1行が横浜を出港、米欧に派遣された。中に最初の女子国費留学生5人。満14歳の上田梯子(1857～?)と吉益亮子(1857～1886)、11歳の山川捨松(1860～1919)、8歳の永井繁子(1862～1928)、6歳の津田梅子(1864～1929)がいた。上田と吉益は体調をくずして半年で帰国。後に津田塾大学を創立した津田梅子と鹿鳴館の貴婦人と呼ばれた大山巖夫人山川捨松は、現地の初等・中等教育を受け1882年に帰国した。バツサー・カレッジでピアノを学んでいた永井繁子の帰国は、2人より1年早かった。』

女子教育に 大いなる理解を示した新渡戸稲造(東京女子大学 初代学長)は、河井道(1877-1953;恵泉女学園 創立者)、津田梅子(女子英學塾 創立者)、安井てつ(1870-1945;東京女子大学 第2代学長)を 援護した。この 3 人に共通するのは、「自分が 1 番大切と思ったことを、次の世代に伝える」の理念ではなかろうか! まさに、

1. 先に生まれたものは、後に生まれたものを、導く

2. 後に生まれたものは、先に生まれたものを、訪(と)う

の実践である



稲造精神とウラ物資

大律光明

クエーカー(キリスト友会)の精神とは…
 戦前戦中日本に届けられた「ララ、舞舞、その活動の中心を担った人物の多くは、戦前戦中の精神を体現した人々であった。

新加坡坡底街111号, 新加坡 坡底街111号 电话: (65) 6339 1111 传真: (65) 6339 1111